

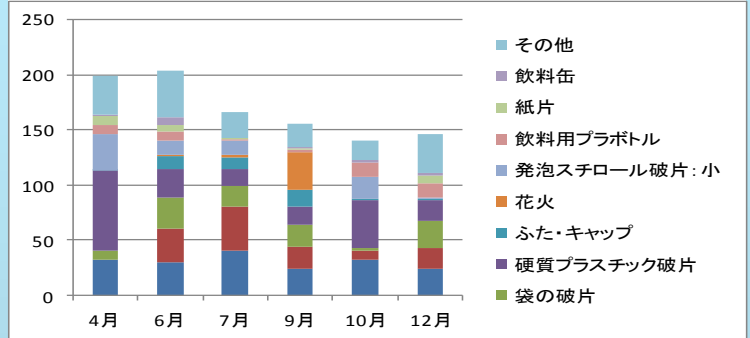
淀川水系活動報告

原田ゼミは淀川下流の海老江、中流の庭窪わんど、上流の桂川にある嵐山の3か所に行き、ゴミの清掃、調査、嵐山ではアンケートを行った。

ゴミの清掃、調査と同時にゴミマップの作製も行っており、誰でも「どこに」「どんな」「どれくらい」漂着ゴミがあるのかが一目でわかるものを作っています。

海老江の活動

毎月第2日曜日に海老江での清掃活動を行っている。ゴミンゴが主催となっているこの海老江の活動に参加者は企業の方、地元の方々なども大勢参加している。毎回多くのゴミが回収される。ゴミの多くは、発泡スチロール、ペットボトルである。



NPO法人ゴミンゴとは河川ゴミの清掃活動を積極的に行い、地域の方々に河川ゴミへの関心を持ってもらう活動を行っている。

私たちは海老江で拾ったゴミの種類や数を記録してデータを取っており、グラフは昨年の4月～12月のゴミの調査をまとめたものである。

刃物や、注射器などの危険なゴミが落ちていることも珍しくない。夏場には、花火やバーベキュー後のゴミが多く目に入った。

庭窪わんどの活動

私たちは、河川レンジャー主催の「わんど周辺の清掃活動」に参加し、6月にわんど周辺の除草作業を行い、11月にはゴミ拾い活動を行った。

わんどは図のような川の流がほとんど入らない環境であり、生き物にとって格好の住処となる。

特に庭窪わんどでは、「イタセンパラ」と言う魚が生息しており、大変貴重な環境となっている。



淀川に蘇れ！イタセンパラ



イタセンパラとは、タナゴの仲間で岐阜県、富山県の一部、そして庭窪わんどにしか生息していない大変貴重な魚である。繁殖期になると、オスは婚姻色と呼ばれる美しい体色が現れ、メスは子供を守るため、二枚貝の中に卵を産み付けるといった変わった習性を持っている。

庭窪わんどでは外来動植物問題が深刻である。外来植物（ボタンウキクサ、ナガエツルノゲイトウ）が繁殖し、わんどの表面を覆い尽くす結果、周囲の固有種を駆逐したり、水中が酸欠に陥ってしまう。外来魚（オオクチバス、ブルーギル）が捕食する。さらに環境の悪化により激減してしまった。絶滅危惧種に指定され、最も絶滅の危険性が高い希少野生生物である。

イタセンパラ市民保全ネットワークはイタセンパラを守るため、定期的な外来植物の除草、外来魚の駆除、イタセンパラの放流を行っている。その活動が実り、8年ぶりに野生の状態での繁殖が確認された。

嵐山で、11月から12月にかけて観光客の方を対象に、アンケート調査を行った。

調査の目的は、嵐山の環境を守るために支払える金額（支払意志額）を対面アンケート方式で観光客の方に尋ね、嵐山の環境の価値を算出することである。

また、この調査を毎年行い、年度ごとに比較するためのデータを集めるとともに一般人が海ごみについてどれだけ知っているか調べている。

今年は10月の洪水の影響もあり環境に関する意識が高かったと感じた。

| | 2012 | 2013 |
|-----|-------|-------|
| 中央値 | 1671円 | 1280円 |
| 平均値 | 2042円 | 1722円 |

嵐山アンケート



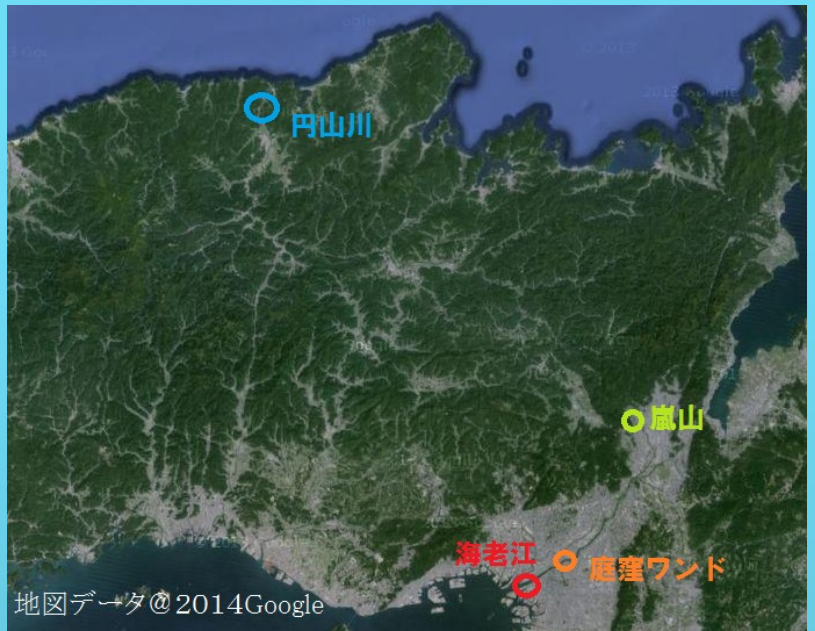
豊岡市での漂着ゴミ調査

3回生は兵庫県豊岡の円山川で地元住民のみなさんと協力し、ゴミを調査を行った。ゴミマップ作成を行い、円山川のゴミの位置を調べている。

ゴミマップの目標

1. このゴミマップの調査の目的としては、状況を明らかにし、地元住民のみなさんに生活の中で出るごみを意識してもらうこと
2. コウノトリの野生復帰、良好な生態環境づくり
3. 生態系の保全、景観の維持

ゴミマップの活動風景



地図データ©2014Google

平成14年に襲った台風23号より、大雨が降ると毎年洪水による流木が豊岡に流れてくる被害が出ている。

その問題を解決するためには上流の森林整備、また、流木を有効に活用するため、回収した流木を炭やペレットに再資源化できないか、という解決策も考えられている。

| 平成22年 | 面積 (ha) | 比率 (%) |
|-------|---------|--------|
| 人口林 | 23,744 | 43 |
| 天然林 | 29,671 | 54 |
| その他 | 1,878 | 3 |

12月14日、ハチゴロウの戸島湿地の近隣にある楽々浦(ささうら)の集落で、自治会の方と、ディスカッションとヒアリングを実施した。

豊岡では船小屋が破壊されるなど、流木の被害が大きく、地元住民はゴミ問題よりも流木の方に関心が強いことが分かった。

流木は日本の撤去だけでは困難であり解決には時間かかる。

今後、3回生は2月末に地元の自治会の話聞いたうえで、調査、研究し、議論を進めていく予定である。



出所 (2014年5月14日 毎日新聞)

EnactusJAPAN 3位獲得

大学生による社会貢献活動の成果を競う
enactus Japan国内大会2013に参加し3位の成績を残しました!

発表のテーマは

「保津川でのチャリティーツアーの企画」です

地元のNPO法人団体や、保津川遊船企業組合、亀岡市と協力し「寄付金付き旅行プラン」というコンセプトで、近年盛んなCSR活動(企業の社会的ニーズを満たすために、対象を企業の社員研修やCSR活動にしぼった団体旅行プランを考え、企画しました。



Enactusは、アメリカ・ミズーリ州に本部を置き、世界37ヶ国の1,600を超える大学で、62,000人以上の学生が参加する次世代のビジネスリーダー育成を目的とした教育プログラムです。前進のSIFE(Student in Free Enterprise)が1975年にアメリカで設立し、それから37年間、世界各国で多くの企業や個人から資金協力や人的支援を受けて、地域密着・社会貢献型ビジネスの実践(Action)を通じて、学生自身のキャパシティビルディングを実現しています。